

これまでのとりくみ

(国語)

本校では自分の思いや考えを「書く」ことに力を入れてとりくんでいる。朝の長坂タイムでは、週に1回、全学年で日記指導に取り組んでいる。授業ではイメージマップの作成やワークシートの活用、タブレットの導入など、多様なツールを用いて、書く活動のサポートをおこなっている。さらに、低学年から高学年まで段階的に書く力が身につくよう、作文ルールブックを作成し、スモールステップで学習を進めている。ペアやグループでの交流を通して、互いの考えを共有し、表現力を高める活動も実施している。

(算数)

朝の長坂タイムでは、算数の基礎力定着のために、基礎問題から応用問題まで幅広く学習している。授業では、少人数指導やチームティーチングを取り入れ、個々の児童に合わせたきめ細やかな指導をおこなっている。特に、低学年では、くりあがり・くりさがりの計算や九九の定着に、高学年では、四則計算、分数計算の定着に力を入れている。また、文章問題を読み立式する力をつけるため、新しい課題にも自分で向き合えるような力や文章読解力の育成に力を入れている。

教科の結果より

国語では、例文を参考に文章を書くことや設問の意味を正確に理解すること、複数の情報から必要なものを取り出す力などが不足している。特に記述式の問題では**無解答率**が高く、与えられた条件のもとで文章を作成したり、複数の文章を比較したりする力が弱いことが課題として挙げられる。そのため文章構造の理解を深め、様々な種類の文章に触れる機会を増やすことが必要である。

算数では、立式して答えを求める問題には慣れていない反面、記述式の問題を苦手に行っていることが読み取れる。また、大阪府や全国の平均と比較して**無解答率**が非常に高いという点が課題としてあげられる。この原因として、児童が文章問題から必要な情報を読みとることができていないため、問題を解く前につまずいている可能性が考えられる。

教科	本校	大阪府	全国
国語	19.8%	4.3%	4.2%
算数	12.6%	3.4%	3.4%

各教科の無解答率

全国学力・学習状況調査の結果より

児童・生徒質問紙より

- ・国語の学習は大切であるし、将来役に立つと思う児童が多い。しかし、国語の学習について好きではないと感じている児童が多い。
- ・学習の目的を教師と児童でしっかり共有する必要がある。
- ・算数について半数の児童は大切であり、将来、社会で役に立つと感じているものの、その学習内容の難しさから苦手感を覚え、好きになれない。

これからのとりくみ

- ・様々な文章にふれ内容をよみとり、さらに筆者の意図を想像したり、友達と考えを交流したりして、言語のもつよさに気づけるようとりくみを進める。
- ・児童にふりかえりの観点を示し、学習したことの要点をまとめて書く力や自分の考えを書く力を付けていく。
- ・漢字の読み書きの定着を行う。
- ・授業内では、答えだけでなく、どのように導き出したのか、思考がわかるようにノートに書くようにする。
- ・問題に書かれている数字が何を表しているのかを授業中におさえる。
- ・式の意味を理解させるために、算数用語を用いた言語化をはかる。
- ・問題をしっかりと読み内容を正しくつかむことを意識させ、習慣化させる。(式の意味を把握しにくい場合はロールプレイも交えながら実生活におとしこめるように指導を心がけることや上から順番に文章を読むなどする)
- ・ペア活動で自分の考えを発表しあう活動を取り入れ、言葉を使って表現することを通して自分の書いた文章を推敲する機会を算数の時間にも設けたい。